

経済・経営・情報/専門科目

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
情報科学概論		情報社会の仕組みを学ぶ	小宮 全	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	デジタル, サイバー攻撃, 情報関連法規		
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 3. 情報化社会に対応するためのITスキルの基本処理能力を身につける			
事前に受講するとよい科目		プログラミング入門			
講義の目的	日常生活を送る中で、私たちは様々な場面でITを利用している。本講義では、そのような身の回りにあるITの仕組みの理解を通し、一般教養として必要なIT知識を身に付けることを目指す。				
到達目標	一般教養としてのIT知識を身に付けるための一つの指標として、情報処理推進機構主催のITパスポート試験の合格を目標とする。また、新聞・雑誌等のIT用語が理解できるようになることも具体的な目標の一つである。				
講義内容	講義の内容は、大きく分けて3つに分かれている。1:技術的な知識、2:IT関連法規、3:ITと企業活動である。ITが生活や企業活動の基盤になっていることを意識し、技術・法律・マネジメントの融合として理解できるような講義内容になっている。また、最新のトピックについても解説する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	ガイダンス、ハードウェアとソフトウェア		
	第2講	アナログとデジタル	データの表現、アナログをデジタルで表現する		
	第3講	インターネットの仕組み	通信ルール、ネットワーク、無線技術、電子メール		
	第4講	インターネットの安全性	暗号化技術、電子署名・デジタル署名、認証技術		
	第5講	ウイルスとサイバー攻撃	ソーシャルエンジニアリング、サイバー攻撃手法、ウイルス		
	第6講	情報セキュリティマネジメ	マネジメントとは、情報セキュリティマネジメント		
	第7講	リスクマネジメント	リスクの定義、リスク分析		
	第8講	最近の話題	ブロックチェーン、量子コンピュータ、人工知能		
	第9講	企業を表す数値	管理会計・財務会計、PL・BS・CF・SS、損益分岐点		
	第10講	標準化	標準化の目的、標準化の種類、鉄道系の標準化団体・規格		
	第11講	関連法規	知的財産、個人情報保護、マイナンバー法、不正競争防止法		
	第12講	情報セキュリティ関連法規	IT基本法、サイバーセキュリティ基本法、不正アクセス禁止		
	第13講	内部統制とシステム監査	コンプライアンス、BCP、CSR、コーポレートガバナンス		
	第14講	データベース	データベース、SQL		
第15講	システム戦略	SLM、構成管理、インシデント管理、ファシリティマネジメント			
指導方法	基本的に講義計画に沿ったテーマで講義を行う。演習が必要な場合は、コンピュータ室での授業となる。毎回、講義・実習後にプリントを配布し、小テスト・習熟度アンケートを実施する。宿題は、授業の復習となる内容になっている。				
事前学習	事前学習として、次回授業で使用するパワーポイントファイルや資料を授業のウェブページで公開するので、それらを必ず読んでおくこと。1時間程度の学習時間が目安である。				
事後学習	事後学習として、授業の復習となる宿題を必ずやること。毎回、ITパスポート試験に合格するための課題が出る。1時間程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	本試験(筆記試験):50%、平常点:50%[課題(授業外で作成した提出物)]を総合的に判断して評価する。授業期間中(本試験の前まで)にITパスポート試験に合格した場合は、本試験を免除し、本試験の評価を満点として扱う。課題は複数出るが、一つでも未提出の場合は成績評価の対象としない。(成績は「D」ではなく「X」となる)。				
テキスト	必要に応じて資料・レジュメを配布する。				
参考書籍	特になし。必要に応じて、授業内で紹介する。				
特記事項	授業のウェブページ: https://www.netdemanabu.com/toko/2023/computer-science/				

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
プログラミング入門		Python を使ってプログラミングの基礎を学習する		小宮 全	1 年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	Python, プログラミング, グラフ作成, 画像解析, 人工知能			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 3. 情報化社会に対応するための IT スキルの基本処理能力を身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	本講義では、今後交通業界でも必ず必要になるプログラミングについて理解することが最大の目的である。プログラミングを理解するために、本講義では Python を採用した。また、2 年次に交通情報論ゼミを希望する場合は、本講義を受講することを推奨する。					
到達目標	プログラミング言語の基本的な構造を理解することができる。Python を使って、データの可視化ができる。Python のさまざまなライブラリを利用することができる。					
講義内容	本講義では、プログラム言語である Python の基本文法を学習する。さらに、それらを用いてレポートや論文作成に役に立つグラフの作成方法・データの分析方法・画像解析方法の習得を目指す。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	Python の特徴を理解する。開発環境を構築する。			
	第2講	変数と文字列操作	文字列操作、変数について理解する。			
	第3講	ファイル操作	プログラムの条件分岐を理解する。			
	第4講	条件分岐	リストとディクショナリ型を習得する。			
	第5講	リストと繰り返し	繰り返し (while) を習得する。			
	第6講	関数の作成 (1)	繰り返し (for) を習得する。			
	第7講	関数の作成 (2)	ユーザー定義関数の作り方を理解する。			
	第8講	データの可視化 (1)	Matplotlib を使ってグラフの作成方法を理解する。			
	第9講	データの可視化 (2)	適切なグラフを選択し、レポートを作成する。			
	第10講	数値計算結果の可視化 (1)	数値実験（さいころの再現）を実施する			
	第11講	数値計算結果の可視化 (2)	数値実験（さいころの再現）の結果をまとめる			
	第12講	人工知能の原理を理解する (1)	学習機能なし単純パーセプトロンを実装する。			
	第13講	人工知能の原理を理解する (2)	学習機能あり多層パーセプトロンを実装する。			
	第14講	人工知能を利用した画像解析 (1)	画像認識ライブラリの使い方を理解する。			
第15講	人工知能を利用した画像解析 (2)	動画中の物体の認識に関するレポートを作成する。				
指導方法	毎回事前動画を視聴し、簡単なプログラムを作成し、授業に臨むこと。事前動画を視聴し、課題を終了していることを前提として授業を進める。授業は解説をし、その後実習をするという流れになる。					
事前学習	事前に指定された授業動画を視聴し、その中で指示された課題を実施すること。学習時間の目安は 1 時間程度である。					
事後学習	授業内で指示された復習課題を実施すること。学習時間の目安は 30 分から 1 時間程度である。受講生同士で相談してもよい。					
成績評価方法	課題（授業外）(50%)、平常点（プログラム提出、発言）(50%)。課題を提出しなかった場合は、成績は” X ”になる。後期本試験は実施しない。課題と平常点で評価する。					
テキスト	特になし。必要に応じて、授業内で紹介する。					
参考書籍	特になし。必要に応じて、授業内で紹介する。					
特記事項	授業のウェブページ : https://www.netdemanabu.com/toko/2023/introduction-to-programming/					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
情報リテラシー 1A～4A		情報化社会でのPCの効果的利用		佐古 仁志・宗像 俊輔 大野 俊尚・山本尚樹	1年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	情報リテラシー、ITスキル、文章作成、表計算、プレゼンテーション			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 3. 情報化社会に対応するためのITスキルの基本処理能力を身につける					
事前に受講するとよい科目	特になし					
講義の目的	企業や一般社会、研究においてもコンピュータの活用は必要不可欠なものとなっている。本講義では、効率的かつ安全なコンピュータの活用法を学ぶことが目的である。					
到達目標	ICT知識の修得と「ICTプロフィシエンシー検定試験（P検3級）」合格レベル					
講義内容	本講義は、「情報リテラシーB」（後期）とともに一連の内容を扱う。「情報リテラシーA」では、インターネットでの適切なコミュニケーション方法やそこに潜む危険性を学ぶとともに、実用的なワープロソフトや表計算ソフトの活用について実習を通して学ぶ。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	オリエンテーション	授業概要や運営方法・コンピュータの使い方・P検定の説明			
	第2講	コンピュータ基礎知識(1)	コンピュータ知識・情報通信ネットワーク			
	第3講	コンピュータ基礎知識(2)	情報モラルと情報セキュリティ			
	第4講	コンピュータ基礎知識(3)	プレゼンテーションソフトの使い方			
	第5講	ワープロソフトの活用(1)	文書の作成、図表の挿入			
	第6講	ワープロソフトの活用(2)	印刷と表現力			
	第7講	ワープロソフトの活用(3)	長文レポートと校閲			
	第8講	ワープロソフトの活用(4)	問題演習とその解説			
	第9講	表計算ソフトの活用(1)	データの入力、表の編集			
	第10講	表計算ソフトの活用(2)	印刷、グラフの作成			
	第11講	表計算ソフトの活用(3)	データベースの操作、複数シートの活用			
	第12講	表計算ソフトの活用(4)	関数の利用			
	第13講	表計算ソフトの活用(5)	問題演習とその解説			
	第14講	全体のまとめ(1)	問題演習とその解説（P検3級の模試）			
第15講	全体のまとめ(2)	自由研究論文フォーマットの使い方				
指導方法	本講義は講義と演習を並行して行う科目である。授業に出席し、かつ、PCで毎回出題される課題を完成させることが重要となる。必要に応じて宿題を課すことがある。					
事前学習	テキストを一読し、PC上の操作より目的をまずはっきりさせておくことが重要である。1時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習	操作をもう一度PC上で再現し、可能であれば別のファイルでも習った機能を使ってみることで、利点や問題点が明らかとなる。また、様々なケースについて機能を適応させることの繰り返しによって、PC活用の熟達度を上げることができる。1時間程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法	本試験（筆記試験）：30%、平常点（授業内課題と授業内小テスト）：70%。授業期間内にP検3級以上に合格した場合は、本試験を免除する。					
テキスト	「情報リテラシー アプリ編（Windows 10・Office 2019 対応）」FOM出版 ISBNコード 978-4865104189					
参考書籍	講義内で適宜指示する。					
特記事項	プレイスメントテストにより、1、2、3、4のクラス分けを実施する。					

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
情報リテラシー 1B～4B		情報化社会でのPCの効果的利用	佐古 仁志・宗像 俊輔 大野 俊尚・山本尚樹	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	情報リテラシー、ITスキル、文章作成、表計算、プレゼンテーション		
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 3. 情報化社会に対応するためのITスキルの基本処理能力を身につける				
事前に受講するとよい科目	特になし				
講義の目的	企業や一般社会、研究においてもコンピュータの活用は必要不可欠なものとなっている。本講義では、効率的かつ安全なコンピュータの活用法を学ぶことが目的である。				
到達目標	ICT知識の修得と「ICTプロフィシエンシー検定試験（P検準2級）」合格レベル				
講義内容	本講義は、「情報リテラシーA」とともに一連の内容を扱う。「情報リテラシーB」では、表計算ソフトにおけるデータ処理及びプレゼンテーションソフトの活用について実習を通して学ぶ。また、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト相互の連携やより実践的な使い方を通し、様々な場面に対応できるコンピュータスキルを身に付ける。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	コンピュータ知識		
	第2講	表計算ソフトの活用(1)	表示形式、条件付き書式		
	第3講	表計算ソフトの活用(2)	高度なグラフ、ピボットテーブル		
	第4講	表計算ソフトの活用(3)	データベースの活用、マクロの作成		
	第5講	表計算ソフトの活用(4)	ワープロソフトとの連携		
	第6講	表計算ソフトの活用(5)	問題演習とその解説		
	第7講	プレゼンソフトの活用(1)	作成、オブジェクトの挿入、構成の変更		
	第8講	プレゼンソフトの活用(2)	特殊効果、印刷、他のアプリケーションとの連携		
	第9講	プレゼンソフトの活用(3)	スライド共通デザイン、便利な機能		
	第10講	プレゼンソフトの活用(4)	課題発表(1)		
	第11講	プレゼンソフトの活用(5)	課題発表(2)		
	第12講	コンピュータ基礎知識(1)	情報通信ネットワーク		
	第13講	コンピュータ基礎知識(2)	情報モラルと情報セキュリティ		
	第14講	全体のまとめ(1)	問題演習とその解説(P検準2級の模試)		
第15講	全体のまとめ(2)	自由研究論文フォーマットの使い方			
指導方法	本講義は講義と演習を並行して行う科目である。授業に出席し、かつ、PCで毎回出題される課題を完成させることが重要となる。必要に応じて宿題を課すことがある。				
事前学習	テキストを一読し、PC上の操作より目的をまずはっきりさせておくことが重要である。1時間程度の学習時間が目安である。				
事後学習	操作をもう一度PC上で再現し、可能であれば別のファイルでも習った機能を使ってみることで、利点や問題点が明らかとなる。また、様々なケースについて機能を適応させることの繰り返しによって、PC活用の熟達度を上げることができる。1時間程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	本試験(筆記試験)：30%、平常点(授業内課題と授業内小テスト)：70%。授業期間内にP検準2級以上に合格した場合は、本試験を免除する。				
テキスト	「情報リテラシー アプリ編 (Windows 10・Office 2016対応)」FOM出版 ISBNコード 978-4-86510-347-2				
参考書籍	講義内で適宜指示する。				
特記事項	原則として「情報リテラシーA」(前期)と同じクラスで受講すること。必要に応じて、個別に教員からクラス替えを指示する場合がある。				

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
ビジネス倫理		～企業に求められるサステナビリティ経営の基盤づくり～		村瀬 次彦	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	コンプライアンス インテグリティ 共有価値創造 サステナビリティ			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		「マーケティング論」				
講義の目的	企業には本業による社会課題解決とともに経済的価値が求められています。そのために変化する外部環境をしなやかに取り込むサステナビリティ経営に向かっています。本講義では、ビジネス倫理の基本的な理論や定義を学ぶとともに、企業が直面している倫理的課題を通じて、将来、自らの職務における倫理的な振る舞いについて思考する際の基礎を構築することを目的とします。					
到達目標	本講義では、①ビジネス倫理の基礎的な理論・定義を知る。②社会と企業との価値創造のための仕組みを理解できるようになる。③その内容を自分の言葉で説明できるようになる。④最新の企業活動の動向を知り、倫理的な課題について自ら考察出来るようになることを目標とします。					
講義内容	ビジネス倫理の重要性は、企業を取り巻く様々なステークホルダーが認めるどころです。「なぜ、企業は倫理的であるべきなのか」「倫理的である企業とは具体的にはどのような企業か」「ビジネス倫理は企業価値の向上にどのように結びつくのか」等のビジネス倫理に関する論点や問題に事例を通じて考察していきます。なお、講義内容については、時間の関係で変更することもあります。さらに、複数の実務家などを外部講師として招聘し、企業の実際の現場で起きている課題について深い見識を得られるようにします。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	オリエンテーション	講義の概要、成績評価の説明、ビジネス倫理の変遷			
	第2講	倫理とコンプライアンス	コンプライアンスの基礎、考え方			
	第3講	倫理と企業不祥事	外部講師予定			
	第4講	倫理とメディアリテラシー	メディア機能の理解と活用			
	第5講	倫理と財務	外部講師予定			
	第6講	倫理と内部統制	外部講師予定			
	第7講	倫理と理念・価値観の意義	外部講師予定			
	第8講	倫理と理念・価値観の浸透	共有と環境づくり、具体事例			
	第9講	倫理と人的資本経営	社員エンゲージメントと生産性との関係			
	第10講	倫理とインテグリティ	インテグリティと企業経営との関係性			
	第11講	倫理とSDGs①	外部講師予定 企業事例 (SDGs)			
	第12講	倫理とSDGs②	SDGsを経営に実装するための思考法			
	第13講	倫理とESG投資	外部講師予定			
	第14講	倫理と共有価値創造	日本企業に求められる共有価値創造の経営戦略			
第15講	ビジネス倫理のまとめ	各講義のまとめ、質問等				
指導方法	講義の前半部（第2講～第6講）は、「守り」の企業経営、後半部（第7講～第14講）では、「攻め」の企業経営を学習する構成です。「ビジネス倫理」は企業経営の基盤とする位置づけです。必要に応じて映像教材の視聴やグループディスカッション等も行う予定です。					
事前学習	事前学習として、日常的に新聞等によりビジネス倫理やCSR、サステナビリティ経営に関する情報を集めてください（1時間程度の学習時間が目安です）。					
事後学習	事後学習として、講義で得た知識をもとに興味のある企業について調べるなどして、知識をさらに深めることが大切です（1時間程度の学習時間が目安です）。					
成績評価方法	平常点（リアクティブレポート：2講～14講）65% 本試験（期末レポート）：25% 平常点（発表・発言）10% *毎回、講義の内容をまとめ思考するレポートの提出を求めます（筆記、オリエンテーションは、練習となります）。					
テキスト	指定テキストはありません。必要に応じて資料を配布します。但し、SDGs①②は、「田瀬和夫他『SDGs 思考』インプレス 2020」をテキストしますが、購入の必要はありません。					
参考書籍	必要に応じて紹介します。					
特記事項	教員経歴：麒麟麦酒他 法政大学大学院政策創造研究科政策創造専攻修士（政策学） 法政大学大学院公共政策研究科サステナビリティ学専攻博士課程 経営倫理実践研究センター常務理事					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
簿記論		企業活動の記録		相原 洋二	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	企業活動の記録から経営成績と財政状態を把握し企業の未来を読み解く			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		「マーケティング論」				
講義の目的	簿記は企業規模や業種・業態を問わずに、日々の経営活動を記録計算整理して経営成績と財政状態を把握する前提となる技能です。簿記を学習することで企業経営に必要な不可欠な会計知識のほか、基礎的な経営管理や分析力が身につく、またビジネスの基礎である利益とコストを意識した仕事と取引先の経営状況を把握でき、社会に貢献できるビジネスマインド育成を目的とします。					
到達目標	本講義では①企業活動を貨幣の視点から記録することが出来るようになる。（例えば、回数券や定期券の販売は、鉄道会社の活動にどう影響するのか、IC カードへ入金はどのような会計処理するのか）。②簿記の仕訳のルールや勘定科目を理解し、③基本的な取引の処理方法を身につけ財務諸表の作成を目標として④会計の役割や財務諸表の構造理解・分析力の習得を目指す。					
講義内容	基本的な簿記の原理を習得することを目的に編成されています。イメージのしやすい商品販売業における簿記を学習することを通じて、現代簿記の基本原則を習得することに務めます。また、簿記の理論を正しく理解するために基本的な会計学についても学びます。さらに本講義では、鉄道をはじめとした交通関連企業の取引についても取り扱います。必要に応じて簿記検定の情報提供も行う予定です。なお、講義内容については、時間の関係で若干前後することもあります。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	リエンション・財務分析	講義の内容、評価方法の説明などの説明・身近な財務分析			
	第2講	総論 1	簿記の意義と種類、簿記一巡の流れ			
	第3講	総論 2	仕訳のルール			
	第4講	個別論点 1	現金・預金の会計処理			
	第5講	個別論点 2	商品販売の会計処理			
	第6講	個別論点 3	債権・債務の会計処理			
	第7講	帳簿のつながり 1	総勘定元帳の意義			
	第8講	特殊論点 1	鉄道事業の特徴と運賃の会計処理			
	第9講	特殊論点 2	バス・貨物事業の特徴と運賃の会計処理			
	第10講	決算整理 1	未収・未払の決算処理			
	第11講	決算整理 2	減価償却の内容と会計処理			
	第12講	決算整理 3	試算表の意義と作成方法			
	第13講	帳簿のつながり 2	試算表と財務諸表			
	第14講	財務分析	財務諸表の構造と分析			
第15講	まとめ	半期の復習				
指導方法	講義はテーマごとに解説をし、問題演習(ミニテスト)を中心に行って行きます。講義レジュメは教室配布しますが、ミニテストの解説で使用しますので次回も必ず持参して下さい。なお、本講義には電卓が必要です。					
事前学習	受講前に必ず前回の講義内容の復習を 30 分程度しておいてください。前回の講義が理解できていることを前提に講義がすすみます。したがって前半の基礎固めをおろそかにすると後半の総合問題が難しくなります。それと日常的に新聞等により企業の経営に関心を持つようにしてください。					
事後学習	簿記は取引を記録する技術なので、反復練習が必要です。授業内での配布プリントから自分の力でアウトプット出来るように当日なら 30 分程度、後日なら 1 時間を目安とする復習が必要です。					
成績評価方法	本試験（計算問題中心の筆記試験）60%、平常点（授業内でのミニテストや授業内課題）30%、平常点（発表・発言）10%で行います。					
テキスト	現時点では指定テキストはありませんが、日商簿記検定3級レベルのテキスト・問題集で演習をするとより身につくと思います。					
参考書籍	ネットスクール株式会社 日商簿記3級とおるテキスト【第3版】、新日本有限責任監査法人 『鉄道・バス事業（業種別会計シリーズ）』					
特記事項	教員経歴：平成20～23年 あずさ監査法人勤務、平成24年～現在 相原公認会計士事務所勤務					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
マーケティング論		現代マーケティングの課題と解決策の探り方		井戸 大輔	1年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、マーケティング・ミックス、顧客関係性			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		特になし				
講義の目的	マーケティングの基礎理論及び用語を使用し、企業や組織のマーケティング諸活動を認識し、説明できるようにすること、第二に、マーケティングの基本的発想法を単なる知識ではなく、感覚として体得することができるようにすること、第三に、卒業後の実際のビジネス・シーンで役立つように、その理論を十分に理解し、基礎知力及び応用力を体得できるようにすることを目的とする。					
到達目標	マーケティングの基礎理論及び用語を使用して、企業や組織の基本的なマーケティング諸活動を認識し、説明できるようにする。マーケティングの基本的発想法を単なる知識ではなく、感覚として体得することができるようにする。卒業後の実際のビジネス・シーンとして役立つように、その理論を十分に理解し、基礎知力及び応用力を体得できるようにする。					
講義内容	マーケティングは企業や組織が市場や環境の変化に適応しつつ、製品やサービスを開発し、広告、販売することが主な内容であるが、個人や非営利組織にも適る。ICT(Information and Communication Technology)化の流れの中で、新たな方向へ歩み始めたマーケティングを効果的かつ効率的に進めつつ、問題の発見と解決のために、マーケティング論の基礎概念や理論を明らかにすることに重点をおくことにする。マーケティング論の予備知識は必要ありません。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	マーケティング発想の経営	売れる仕組みづくり、マーケティング近視眼、価値と性能			
	第2講	マーケティング論の成立	その誕生、その内容、進化するマーケティング			
	第3講	マーケティングの基礎知識	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング			
	第4講	戦略的マーケティング	戦略とは、マーケティングにおける戦略の進化			
	第5講	製品のマネジメント	製品マネジメント			
	第6講	価格のマネジメント	価格マネジメント、多様な価格戦略			
	第7講	広告のマネジメント	プロモーション種類とメディアの種類			
	第8講	チャネルのマネジメント	生産者のチャネル選択、チャネル管理			
	第9講	サービスのマネジメント	サービスの種類、サービスの適切な管理			
	第10講	サプライチェーン	サプライチェーン・マネジメント、在庫のマネジメント			
	第11講	営業のマネジメント	営業の概念、営業活動			
	第12講	顧客理解のマネジメント	顧客の種類、顧客関係の構築とそのジレンマ			
	第13講	顧客理解のマネジメント	顧客を理解すること			
	第14講	ブランド構築	ブランド構築のコミュニケーションとその論理			
	第15講	企業の社会的責任	マーケティングにおける社会的責任、まとめと総復習			
指導方法	資料を元に講義形式を採用する。資料配布は当日の授業前に行う。板書した内容はノートに取り、配布物は管理すること。『日経新聞』『日経 MJ』『日経ビジネス』等からマーケティング関連のトピックスも紹介する。質問等は講義終了後に受付ける。					
事前学習	授業前の事前学習として初回はシラバスをよく読んでおくこと。第1講以降は次回分の資料も配布するので一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間程度の学習時間が目安である。					
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間 30分程度の学習時間が必要である。					
成績評価方法	本試験（筆記試験）60%、平常点（発表・発言）20%、平常点（レポート）20%を総合的に判断して、成績評価とする。レポート課題は第1講で伝達し、第13講を締め切りとし、講評のうえで第14講で返却する。					
テキスト	相原修『ベーシック マーケティング入門』日本経済新聞出版社、2016年。テキストに合わせて、レジメを配布することもある。					
参考書籍	池尾恭一『入門・マーケティング戦略』有斐閣、2016年。 和田充夫・恩臓直人・三浦俊彦『マーケティング戦略』〔第5版〕有斐閣、2016年。					
特記事項	なし。					

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
経営組織論		経営組織のマネジメント	寺本 直城	2年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	経営組織・モチベーション・リーダーシップ・組織形態・経営管理		
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	「マーケティング論」				
講義の目的	経営組織論は、経営組織についての基礎知識から最新の組織研究の動向までを理解することを目的としている。経営組織論の基礎知識として、組織デザインや経営組織論の系譜、組織の中の人々のモチベーションやリーダーシップについて理解し、それらの知識を習得することを目的としている。				
到達目標	①経営組織論の基礎知識を理解する。②自分が関係している組織や関心のある組織について、経営組織論に基づいて分析できるようになる。③組織の問題について、論理的・批判的・建設的に議論することができるようになる。				
講義内容	組織を経営、ないし、管理するという事は、二つの意味を包含している。第1に組織をマクロな視点に立って管理するという事。第2に、組織の中にいる人びとに着目して、ミクロな視点から組織を管理するという事。その両方の視点から、より基礎的で応用可能なトピックに焦点をあて講義を展開する。本講義では、経営学の原理の一端を担う経営管理論及び経営組織論の基礎を体系的に学ぶ。各授業で、経営組織論の基礎知識と、実践的思考・論理的思考を習得する				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	イントロダクション	経営組織論とはどのような学問か		
	第2講	組織とは何ぞや？	経営組織の定義とその要件		
	第3講	組織作りの基本的な考え方	組織を作る際の基本的な考え方		
	第4講	組織形態	組織形態の基本と実際の企業で使われている組織形態の種類		
	第5講	経営組織論の系譜①	科学的管理法と経営組織		
	第6講	経営組織論の系譜②	人間関係論と経営組織		
	第7講	経営組織論の系譜③	近代組織論と経営組織		
	第8講	経営管理の影	組織の管理と「モダンタイムス」		
	第9講	パーソナリティ論	個人の性格		
	第10講	モチベーション理論①	人の欲求とモチベーション		
	第11講	モチベーション理論②	組織の中の人のやる気		
	第12講	組織とコミュニケーション	組織におけるコミュニケーションの意味と阻害要因		
	第13講	リーダーシップ論①	リーダーとは誰で、リーダーシップとは何か？		
	第14講	リーダーシップ論	リーダーシップ論の系譜		
第15講	経営組織論のまとめ	経営組織論の講義の総括			
指導方法	授業は、基本的に板書やパワーポイントを用いた講義形式で行う。また、授業中にアクティブ・ラーニングの一環として、ケーススタディや映像教材を用いて、受講生同士または教員を含めてグループワークを行う。授業には、必ずノートを持参し、講義内容やディスカッション内容をメモすること。				
事前学習	毎回講義終了時に次の講義につながるクイズを出題するので、それについて考えたり、調べたりしてこること。具体的には、インターネットや書籍を用いて1時間半程度を目安に予習してこること				
事後学習	講義ノートをしっかりまとめるという作業を行うこと。ノートをまとめる作業により講義を深く理解することができるようになる。具体的には授業時間と同等の1時間半程度を目安に行うこと。				
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（小テスト）30%				
テキスト	テキストは使用しない				
参考書籍	高橋正泰監修・高木俊雄・四本雅人編（2019）『マクロ組織論』学文社 高橋正泰監修・竹内倫和・福原康司編（2019）『ミクロ組織論』学文社				
特記事項					

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
経営戦略論		戦略なくして経営はならず		寺本 直城	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	経営戦略・競争戦略・戦略の種類			
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力					
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける					
事前に受講するとよい科目	特になし					
講義の目的	本講義の目的は、企業経営の根幹をなす経営戦略についての基本的な考え方について理解することである。本講義では、1960年代から活発に議論されてきた経営戦略論の基礎を理解するために、戦略の体系や企業の成長などの観点から経営戦略について議論していく。経営戦略論はより論理的思考が求められるため、本講義ではそのような論理的思考を鍛える場としても活用されたい。					
到達目標	①経営戦略論の基礎を理解し、②経営戦略を理解するための論理的思考を身に付け、③身近な組織の戦略を分析したり考えたりすることができるようになる。					
講義内容	企業などの経営体が成功するためには経営戦略が非常に重要である。営利企業でなくとも、例えば部活動やサークル活動などでも、よりよい成果を得るために「どのようにすればいいか」を考えることが重要であることは自明のことであると思う。本講義では、企業などの経営体は実際にどのように戦略を形成しているのか、またはどのように戦略を形成すればいいのかを学習する。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	イントロダクション	経営戦略論とはどのような学問か			
	第2講	戦略って何ぞや？	経営戦略の定義とその要件			
	第3講	経営戦略の体系	企業における経営戦略の体系			
	第4講	経営戦略の前提要件	ミッション・バリュー			
	第5講	経営戦略の前提要件	ドメインとその違いによる経営戦略の立案			
	第6講	セグメンテーション	GMの経営戦略			
	第7講	セグメンテーション	セグメンテーションと経営戦略			
	第8講	経営環境と戦略	環境の不確実性分析と経営戦略			
	第9講	経営環境と戦略	SWOT分析と経営戦略			
	第10講	PLC曲線と経営戦略	製品・サービスの寿命			
	第11講	PPM分析と経営戦略	どの製品・サービスが企業を救うか			
	第12講	Porterの競争戦略論	市場を規定する5つの力：Five Forces分析			
	第13講	Porterの競争戦略論	企業の3つの基本戦略			
	第14講	創発戦略	戦略は計画通り進むのか			
第15講	経営戦略論のまとめ	経営戦略論の講義の総括				
指導方法	授業は、基本的に板書やパワーポイントを用いた講義形式で行う。また、授業中にアクティブ・ラーニングの一環として、ケーススタディや映像教材を用いて、受講生同士または教員を含めてグループワークを行う。授業には、必ずノートを持参し、講義内容やディスカッション内容をメモすること。					
事前学習	毎回講義終了時に次回の講義につながるクイズを出題するので、それについて考えたり、調べたりしてくること。具体的には、インターネットや書籍を用いて1時間半程度を目安に予習してくること。					
事後学習	講義ノートをしっかりまとめるという作業を行うこと。ノートをまとめる作業により講義を深く理解することができるようになる。具体的には授業時間と同等の1時間半程度を目安に行うこと。					
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（小テスト）30%					
テキスト	テキストは利用しない					
参考書籍	大月博司編著（2019）『経営戦略の課題と解明』文真堂					
特記事項						